

地域ケア推進会議から  
見えてくる  
高齢者の買い物支援

# 高齢者の買い物の特徴【北部】

- 「高齢者急増×買い物不便地化」の進行に対する問題意識が強い。
- ITへの抵抗感が強いエリア（セルフレジやネット注文への不安）。
- スーパー利用はできているが、徒歩圏の小売店がどんどん消えている。
- 重い荷物／階段住宅／駐車場が遠いなど日常の細かい不便が多い。
- 最も望むのは「乗り合いバス・タクシーなど移動手段」。
- 「マルエツ小林店」のような地域からの店消失に強い危機感。

# 高齢者の買い物の特徴【南部】

- 徒歩・自転車・自家用車・生協など多様な買い物手段を使い分ける層が多い。
- 生協の利用率が高いものの、文字が細かい、注文が難しい、同じものを繰り返し注文してしまうなどの課題がみえた。
- アンケートでは「バス／乗り合い車／店舗専用バス」の希望が最も多い。
- 「高齢者仕様のコンビニが増えてほしい」という新しいニーズあり。
- 買い物同行サービスは必要だが、費用負担や保険リスクで運用が難しいという指摘もあり。
- 買い物を「楽しみ」と捉える人が多く、交流・外出機能としても重要といえる。。

# 高齢者の買い物の特徴【船穂】

- 現状では困りごとが少なく、「今はできている」層が多い。
- しかし、免許返納後や悪天候時への将来不安が非常に大きい。
- 重い荷物の持ち帰り・支払い方法の複雑さ・認知機能低下への不安などが挙げられた。
- 買い物専用バスなど、移動手段の確保が最も求められている。
- 「自分の目で選びたい」というニーズが強く、ネット買い物は補助的。
- 地域での交流（ちょきん体操など）を“助け合いの場”に発展させたという前向きな声もあった。

# 高齢者の買い物の特徴【印旛】

- 高齢化率が高く、車依存が顕著。
- ボランティア送迎や地域の自主運行（自家用車持ち出し）など、地域内の助け合い実践が始まっている。
- ただし、担い手の高齢化や利用者減などで継続性に課題が生じている。
- 女性の「自分の目で選びたい」「家族とでは買いつらいものがある」などの声が多い。
- 移動販売はコミュニティ機能（見守り）としての価値が非常に高い。
- スーパー撤退や店の減少に強い危機感。

# 高齢者の買い物の特徴【本埜】

- グループワークでの課題が多様に提示され、買い物の“移動困難”が中心課題。
- ふれあいバスの段差・歩行器不可など、交通バリアが多い。
- 重い荷物問題・階段のある住まい・買い物難民化などが顕著。
- ネットスーパーや生協は利用されるが、IT操作の不安・在庫不足・品揃えの偏りが壁になっている。
- 地域のつながり（子ども×高齢者など）を求める声が出ており、交流の再構築が必要。

# 5 圏域の特徴をまとめると・・・

	一言でまとめると・・・	キーワード
北部	IT苦手×店の減少危機感大	移動手段／店を守る／簡単注文
南部	多様な手段あるが注文・情報が課題	生協の使いづらさ／高齢者向け店舗
船穂	今はできるが将来が不安	移動確保／自分で選びたい／交流
印旛	車依存／助け合いが盛んだが継続性が課題	送迎担い手不足／女性の選択ニーズ
本埜	交通バリアが最も深刻	IT不安／孤立防止／段差

# 印西市における 高齢者の買い物課題の全体像

## ◆移動手段の不安

免許返納後の代替交通手段不足や悪天候時の外出困難が大きな課題

## ◆車利用の限界とリスク

免許返納や身体機能の低下により車利用が困難となり、買い物困難リスクの高まり

## ◆物理的負担

重くかさばる品物の持ち帰りや段差の多い住宅が、大きな負担

## ◆地域の買い物環境の変化

徒歩圏内の小売店減少で、車が使えないと買い物が困難になる地域の増加

# 印西市における 高齢者の買い物課題の全体像

## ◆IT化による心理的障壁

セルフレジやネット注文の使い方が分からず、詐欺への不安も心理的障壁

## ◆情報伝達の課題

支援情報は届いていても見られず、忘れられることが多く、伝達方法自体が課題

## ◆高齢者の買い物は、生活基盤

買い物は移動、健康、社会参加、見守りと密接に結びつく高齢者の重要な生活基盤

## ◆買い物支援と地域包括ケア

移動販売や買い物バスは物流だけでなく、地域のコミュニケーションや見守り機能も果たす

# 地域ケア推進会議から見たニーズ

## ◆買い物の移動支援

乗り合いバスやタクシー補助など、自分で店に行ける移動手段

## ◆ITを使わずに済む、簡単な注文方法

電話注文や大きな文字の紙注文票など、ITに頼らない分かりやすい方法

## ◆移動販売や生協等の「使いにくさの改善」

移動販売の品切れ対策や頼みづらい品物（おむつや下着等）が購入できるプライバシー配慮、日用品や衣料品の充実

## ◆店舗で「自分の目で選べる」機会の確保

「自分で見て選ぶ」「外出・交流・楽しみ」へのサポートの充実

## ◆わかりやすい情報提供

困りごとから利用可能な支援に案内するフローチャートなど、情報の整理と可視化

# 買い物の手段・方法ごとにみえた課題と今後できそうなこと

## 買い物の方法

## 課題

## 工夫（できること）

行く

◆お店

- ◆ 移動手段
- ◆ セルフレジ等支払いの複雑さ
- ◆ 購入品の持ち帰りが大変

- ◆ 安いタクシーの運行などができると買い物にいきやすくなるかも
- ◆ 購入品の配送サービス、駅までの送迎サービスなど、各種サービスをさらに周知する
- ◆ 事故予防として、車止めを外していない
- ◆ デイ利用者がスタッフ付き添いで買い物する場合、車からの乗降場所等配慮可能

近くで

◆移動販売

- ◆ 場所が見つからない
- ◆ 商品に限られる
- ◆ 一定の売り上げが必要

- ◆ 注文票とカタログが一体化したものあり
- ◆ 目の悪い方は電話で注文受付
- ◆ 夕食宅配3～5回/週あり（見守り機能あり）
- ◆ 夕食宅配の利用者は、ちょっとした注文なら毎日お届け可能（無料）
- ◆ 「頼んでない」といわれると返品対応するが、繰り返される方には、注文時の注文票の写真を撮っておき確認してもらう等対応。

自宅で

◆コープや生協など  
◆インターネット

- ◆ 注文票の文字が見にくい
- ◆ 同じものを繰り返し注文
- ◆ 到着までに時間がかかる
- ◆ インターネット操作の不安がある

- ◆ シルバー人材センターの家事援助のマッチングが課題
- ◆ エリアごとで家事援助もできる方の登録を呼びかけるなどして、断らない体制を検討中
- ◆ 買い物代行、同行可能
- ◆ 一緒に外出することが楽しみにもなっている
- ◆ 家事援助をしながらの話すのではなく、話し相手として利用したいとの要望もある

代行で

◆家族や友人など  
◆地域の助け合い  
◆介護保険や民間サービス

- ◆ 自分で見て選べない
- ◆ 頼みづらさがある
- ◆ 欲しい時にすぐ買えない